

# マダコ



## 生態的特徴等

【生態】太平洋側は三陸以南、日本海側は北陸以南から九州にかけて分布する。常磐海域のマダコは、2～6月頃に主に外房周辺で産卵し、その後常磐～仙台湾までの広い範囲に広がり、各地先に居つく定着型の「地だこ」と、季節ごとに大きく移動する回遊型の「渡りだこ」の2つのタイプに分かれる。本県沖には、秋から冬に海水温の低下とともに福島以北から渡りだこが南下してくるため、これを狙ったたこつぼ漁等が行われる。寿命は1～1.5年で、主な生息水深は100mよりも浅い海域である。

【漁法と盛漁期】主に、たこつぼ（大洗以南）、底曳網、たる流し（大洗以北）により漁獲され、たこつぼが行われる鹿島・波崎での水揚げが多い。盛漁期は12～2月頃。

【利用】活魚での流通が主流で、地だことしての評価が高い。茹でて食されることが多く、丸のまま茹でた「鹿島だこ」は地元ではお正月の食材として欠かせないものとなっている。

### 資源量は概ね中位、年による変動大きい

（漁獲量）漁獲量は生態的特徴（春に生まれたものが秋から翌年2月頃まで漁獲される）から、暦年（1～12月）ではなく漁獲に併せた時期（9月～翌年8月）で集計した。漁獲量はその年に生まれた稚だこの量、冬季の渡りだこの来遊量により左右される漁ため大きく変動するが、H29は187トであった（図1）。

（水準と動向）水準は漁獲量の推移から「中位」、動向は、最も漁獲量の多いたこつぼのCPUEの年変動が大きく、一定の傾向が認められないことから（図2）「判断せず」とした。

水準



動向

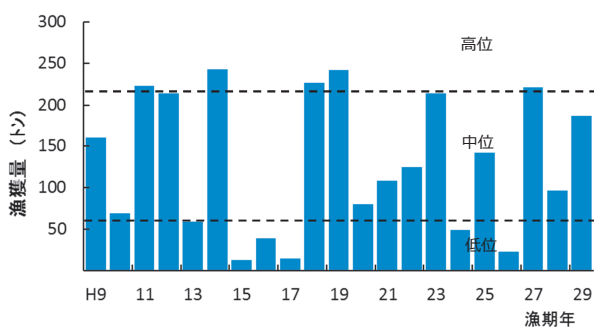


図1 マダコの漁獲量

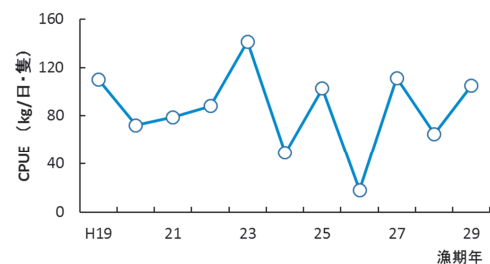


図2 マダコのCPUE (たこつぼ)

### 【全国の漁獲動向】

茨城県以外の主な産地は、兵庫県（明石）、岡山県（下津井）などで多く水揚げされる。これらの地区ではたこ漁の盛期は夏であるが、茨城では冬となっている。

評価期間：平成29年9月～平成30年8月

更新日：平成30年11月1日